

## 米インフレ2%に向けて

2014年6月2日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部  
藤代 宏一  
TEL 03-5221-4523

15:59 現在

<主要株価指数>		
	終値	前日比
日経平均株価	14935.92	303.54
NYダウ	16,717.17	18.43
DAX(独)	9,943.27	4.37
FTSE100(英)	6,844.51	-26.78
CAC40(仏)	4,519.57	-10.94

<外国為替>※		
	101.97 円	0.19 円
ドル円		
ユーロドル	1.3633 ドル	-0.00 ドル

<長期金利>※		
	0.583 %	0.01 %
日本		
米国	2.476 %	0.01 %
英国	2.570 %	0.03 %
ドイツ	1.358 %	0.00 %
フランス	1.767 %	0.02 %
イタリア	2.963 %	0.00 %
スペイン	2.854 %	-0.01 %

<商品>		
	102.71 ドル	-0.87 ドル
NY原油		
NY金	1245.60 ドル	-10.70 ドル

※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。  
(出所) Bloomberg

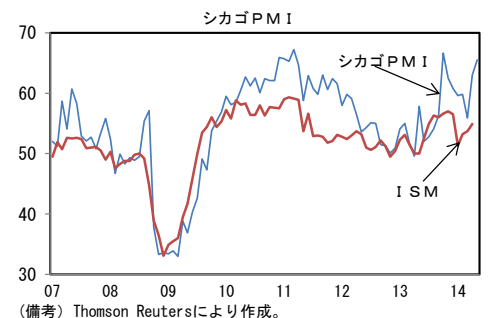
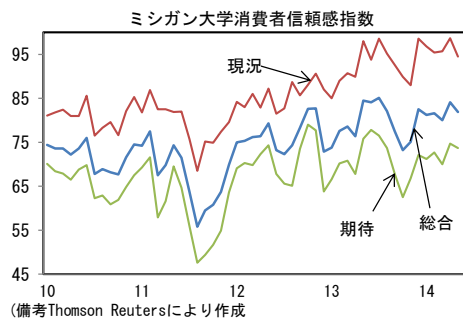
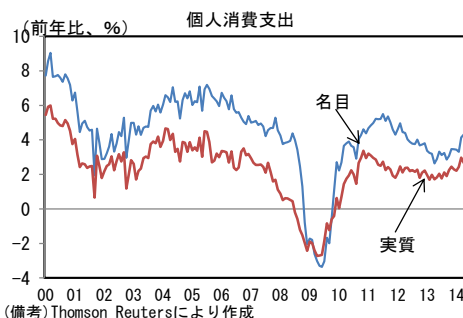
日経平均株価 (円) 15分間隔チャート。縦軸は14600から15000。横軸は11月13日と15日。点線は前日終値を示す。

NYダウ平均株価 (ドル) 15分間隔チャート。縦軸は16600から16750。横軸は22:30、24日、2:30、5日。点線は前日終値を示す。

USD/JPY 15分間隔チャート。縦軸は101.0から102.5。横軸は9日、15日、21日、3日、9日、15日。

### 【海外株式市場・経済指標他】 ~5月もISMは上昇か~

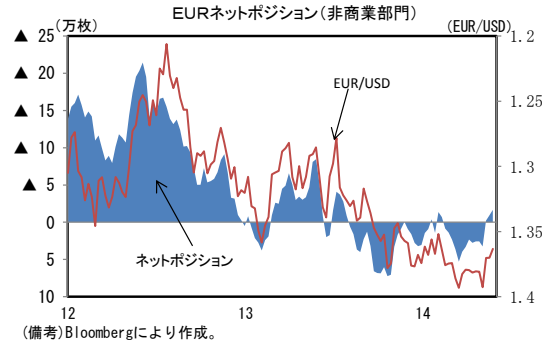
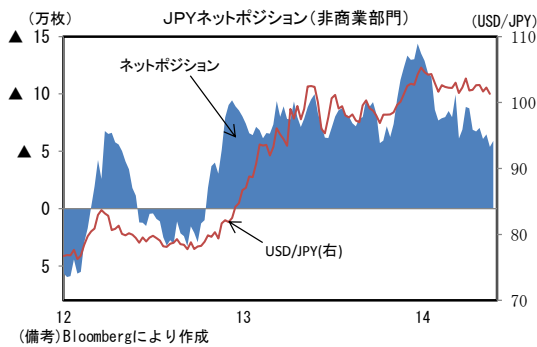
- ・ NYダウ平均株価は前日比+18.43ドルの16717.17ドルで取引終了。
- ・ 4月名目個人消費支出は前月比▲0.1%と市場予想(+0.2%)に反して減少したが、前月分は上方修正(+0.9%→+1.0%)。実質ベースでは▲0.3%の減少となった。個人所得は+0.3%と4ヶ月連続で増加したものの、賃金・給与は+0.3%と伸びが鈍化(3月:+0.6%)。PCEデフレーターは前月比+0.2%、前年比+1.6%と予想に一致。PCEコアデフレーターも予想通り前年比+1.4%に加速。前年比の加速は、前年の裏要因が強いものの、トレンド反転を意識付ける内容であることは確かだ。
- ・ 5月ミシガン大学消費者信頼感指数は81.9と速報値(81.8)から僅かに下方修正され、市場予想(82.5)を下回った。
- ・ 5月シカゴPMIは65.5と市場予想(61.0)に反して前月(63.0)から改善、7ヶ月ぶり高水準となった。既発表の地区連銀サーベイやPMI(Markit)の結果と併せて考えると、5月ISMも上昇が見込まれる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

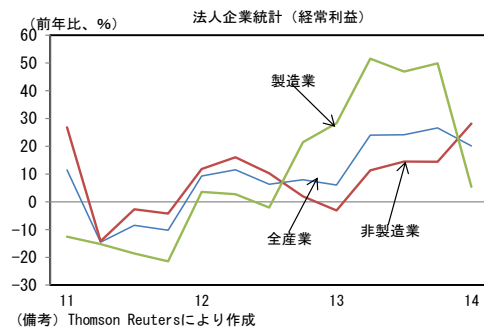
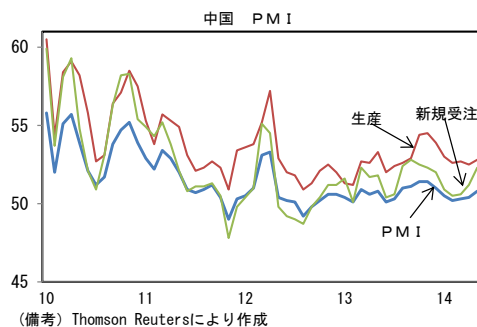
## 【外国為替相場・債券市場】～一時102回復～

- ・前日のG10通貨はCHF、EURがやや強かった。USD/JPYは欧州時間に101後半まで水準を切り上げ、週明け日本時間で一時102を回復。他方、EURはやや買い戻しが優勢となり、1.36前半で推移。
- ・米10年金利は+0.5bpの2.464%。米指標は区々だったが、米株が堅調に推移するなか、米債市場は軟調に推移。欧州債市場は小動き。独10年金利は▲0.4bpの1.354%。GIIPS債にも大きな動きは見られなかった。
- ・CFTCデータ（5/27）によるとJPYネットショートポジションは2週ぶりに増加（5.38万枚→5.90万枚）、EURのネットショートポジションも3週連続の増加（0.92万枚→1.67万枚）。



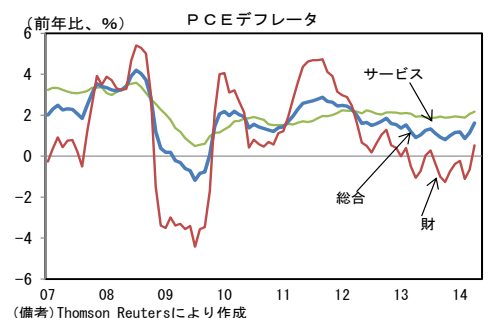
## 【国内株式市場・経済指標他】～中国PMI～

- ・日経平均株価は前日比+303.54円の14935.92円で取引終了。中国PMIを受けて高寄り後、上値追い。
- ・1日発表の5月中国製造業PMI（CLFP）は50.8と市場予想（50.7）を僅かに上回り、前月（50.4）から改善。生産（52.5→52.8）、新規受注（51.2→52.3）、新規輸出受注（49.1→49.3）が小幅改善した一方、在庫（47.3→47.1）は減少しており、バランスの良い改善と言える。
- ・法人企業統計（1-3月期）では売上高（SA）が前期比+1.7%、経常利益が+1.1%となった。経常利益は、製造業が▲13.3%と減少した点はやや気掛かりだが、非製造業が+10.3%と高い伸びを示し、全体では増益を保った。設備投資は前期比+3.1%と4四半期連続の増加。製造業が+5.5%伸びたうえ、非製造業も+1.8%と堅調だった。今回の結果を受けて当社日本経済担当は1-3月期GDP（2次速報）を前期比年率+5.7%と予想している（1次速報値：+5.9%）。



## 【注目点】～米インフレ2%へ向けて～

- ・PCEデフレーターは前年比+1.6%と約1年半ぶりの高い伸びとなった。サービス価格が+2.2%に伸びを高めたほか、財価格も+0.5%とプラス圏に浮上。サービス価格は（帰属）家賃の上昇を背景に今後も安定的に伸びを高めていくことが見込まれ、物価全体の上昇要因となろう。FEDの目標とする2%には相当な距離があるものの、それに向けて上昇を開始したとみられる物価のトレンド変化は日米金利差拡大に必要な米金利上昇をサポートする。米金利上昇にUSD/JPYと日本株も追随するはずだ。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。